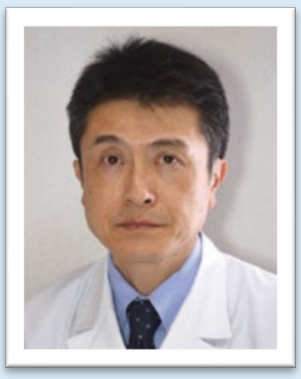
SOCIAL MEDICAL CORPORATION
SHOUWAKAI

OTA PRESS

For Partners

Apr.
2024



新年度のごあいさつ

脳神経センター大田記念病院　院長　田中 朗雄

春暖の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年 4 月院長に就任し、早一年が経過しました。この度無事に第二期目を迎えられましたこと、ひとえにご支援ご鞭撻を賜りました皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

祥和会としましては、2023 年度は本院および分院（沖野上クリニック、明神館クリニック）の院長が一斉に交代しましたが、大きな混乱はなく、多職種連携やてんかん診療などにおいて進展がありました。アルツハイマー病に対する新薬（レケンビ）の投与も始まりました。また、医師の働き方改革についての準備も整い、診療内容を大きく縮小して皆さまにご迷惑をお掛けするようなことは避けられました。

今年 1 月に発生した能登半島地震に対しましては、当院から AMAT および JMAT を現地に派遣して救援活動に従事いたしました。この経験を踏まえ、初の院内防災訓練も実施し、防災本部の立ち上げ演習を行いました。

新年度を迎えるにあたって福山・府中地区では、高齢者の増加や医師の働き方改革に伴う救急診療体制の逼迫が懸念されています。また、診療報酬のトリプル改定に対応して病棟編成や診療内容を変更する医療機関もあるのではないかと思います。そういった医療環境の変化の中でも私どもは地域医療を支える使命を常に胸に刻み、皆様方との緊密な連携を図りつつ、良質な医療の継続に全力を注いでまいる所存でございます。何とぞ、変わらぬご指導ご鞭撻を　賜りますよう、お願い申し上げます。

新年度のごあいさつ

脳神経センター大田記念病院　副院長　大隣 辰哉

いつも当院の診療へのご支援およびご協力、誠に有難うございます。2024年度を迎え、簡単ではございますが本紙面をお借りして、今後力を入れていきたい活動を述べようと思います。2023年4月に副院長に就任して以降は、医師以外の職種の育成にも関わる機会が増えました。職種を問わず指導は大変難しいものですが、その苦労の先には若手職員の驚くほどの成長を目の当たりにすることも多くありました。私自身は診療科の専門医等取得や学術活動、看護師の特定行為の実践活動、中央手術部部長として手術室スタッフの育成等に携わっていますが、このような活動を基盤として育成の活動を広げていければと考えています。私自身、今の年齢と立場になって、根気強い教育こそが組織の質を維持するということを実感しております。

外向きのご挨拶というよりは、若干内に向けた抱負のようになってしましましたが、このような取り組みで病院のソフト面の充実に寄与したいとも考えております。当院を支えて下さる連携施設の皆様に暖かく見守っていただければ幸いでございます。

新年度のごあいさつ

脳神経センター大田記念病院　看護部長　長谷川 理香

この度、新年度を迎えるにあたり看護部のご紹介を致します。

2024 年 4 月に新人看護師 12 名と看護補助者 4 名を迎え、看護師 206 名、看護補助者 41 名、事務 1 名の総勢 247 名となり、超急性期から回復期、在宅までの看護を提供しています。

目指す看護は、1.患者さんに寄り添い、安全・安心、思いやりの心で信頼される看護を実践する、2.チーム医療に看護の役割・専門性を発揮する、3.常に学習し、看護の質の向上に努める　です。

2022 年 9 月にはチーム医療の推進、看護師のリカレント教育の場の提供として特定行為研修センターを開設しました。現在は第 2 期生が仕事と学業を両立しながら研修を受講し、5 月からの臨床実習に向けて取り組んでいます。修了後は臨床現場での活躍を期待しています。

看護補助者と看護師の協働を推進するために 2023 年 4 月に介護課を設置、看護補助者の教育を充実させ、チームの一員として業務を担っています。看護補助者の中には技能実習生 9 名が在籍し、共に病棟スタッフと働く中で日本語力の上達は目覚ましく頼もしい限りです。

2024 年 1 月石川県の能登半島地震の際には、AMAT・JMAT に災害支援ナース 2 名を派遣しました。

当院のような中小規模病院では看護師一人に対して求められる看護実践力は多岐に渡るため、様々な経験を通じて柔軟な看護実践力を高めていくことが必要です。指導できるスタッフを育成し教育体制を充実させ、当院で必要とされる専門的知識と幅広い視点で患者を看ることができる教育計画の再構築が必要と考えます。

2024 年度の診療報酬改定では、人材確保、働き方改革の推進、安心・安全で質の高い医療の推進、ポスト 2025 年を見据えた地域包括ケアシステムの深化・推進や医療 DX 等が掲げられています。これらの社会情勢の変化に柔軟に対応できる看護師の育成を行い、地域の皆様にとって、安心・安全な看護の提供ができればと考えています。

■ TOPICS

Good Job プロジェクトチームの活動で看護師と看護補助者の協働

看護師と看護補助者の協働、タスクシェア・タスクシフトの実現を目指す過程で、「お互いの業務を理解する機会が少ない」との意見が多くみられたため、看護部では、職種間のスムーズな連携を図るため、職場の心理的安全性について学ぶ機会を設けました。

その後、2023 年 10 月に師長、チーフ、サービス向上委員で「Good Job プロジェクトチーム」を発足し、11 月から 6 階病棟で始動。

ネガティブなことは記載しないルールで、月間 120 枚以上を目標に「Good Job カード」を導入したところ、いずれの月も目標を大きく上回る結果となりました。

現在は、病棟に関わる医師や相談員、薬剤師にも対象が広がり、コミュニケーションのきっかけとなり、感謝の連鎖が広がりつつあると感じています。

年度末には、たくさん記載したベスト 3 と、カードをもらった数のベスト 3 を表彰しました。いずれカードがなくても自然に感謝が伝えられる職場を目指しています。

◆「ふくやま 0 次会」に出店！脳卒中予防を啓発しました

3 月 15 日の夕方、福山市今町の JR 山陽本線高架下で「ふくやま 0（ゼロ）次会 Vol.5（一般社団法人「食の駅」主催）」が開催されました。このイベントは、福山駅周辺を周遊する客を増やし、飲食店を盛り上げようという企画で、当日はキッチンカーやショップが並び多くの人手でにぎわいました。

脳神経センター大田記念病院は、医療・介護の相談コーナーに出店。大田記念病院が考えただしパックを使った減塩すまし汁を試飲してもらい、減塩について体感していただきました。「美味しい！」「だしパック使っているよ！」などたくさんのコメントをいただきました。

また、当院に入院していたという“卒業生”の方にもお立ち寄りいただき、お元気な姿を拝見し、スタッフ一同とてもうれしい気持ちになりました。　引き続き、このような機会に参加して、脳卒中予防の啓発を続けたいと思っています。

■発行　脳神経センター大田記念病院
地域医療連携室 TEL：084-975-3900